

（1）大学・学科の設置理念

①大学

「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を目指して、平成17年4月に広島県立3大学を再編統合する形で「県立広島大学」が設置され、20年が経過した。その間、本学を取り巻く環境は、グローバル化や情報化の更なる進展などにより刻々と変化し、個人にとっても、社会にとっても、将来の予測がますます困難な時代に突入している。このような予測困難な時代の中であって、今日、国レベルでの高等教育改革が進められており、大学には、生涯学び続け、主体的に考え、行動できる人材を輩出（育成）するための教育を提供していくことが求められている。また、グローバル化した社会では、異文化間の対立、環境問題や格差の拡大など多くの新たな問題が生じており、こうした課題を解決する実践力が社会から強く求められているとともに、地方の人口減少・流出が深刻な問題となる中、国における地方創生等の議論においては、大学には、地（知）の拠点大学として、これからの地方創生の一翼を担う人材の育成に期待が高まっている。

これらを受け、今回の本学における改組再編では、「地域に根ざした大学」にこだわり、「日本の縮図」と呼ばれ、多様な特性（山・川・海・島、大都会・中山間地域など）や、現代社会の様々な課題を包含する「地域・ひろしま」で、そこに暮らす人々と触れ合いながら、地域の課題を見つけ、解決するなど、「地域・ひろしま」に密着し、そこにある多様な資源を最大限に活用する大学として教育研究活動を実践する。このような教育研究活動を通して、「地域・ひろしま」で学び卒業した学生が、広島県内に限らず県外や国外といった「自らが働き、暮らし、活動する地域」において、愛着を持ち、「地域・ひろしま」で学んだ知識や技能を活用して課題を発見・解決することによって、新しい価値を生み出し、それぞれの地域を活性化する「課題探究型地域創生人材」として活躍できる人材を養成する。国際感覚や多様性を尊重する資質とともに、チャレンジ精神と多様な人々を巻き込む牽引力を有し、地域を理解し、地域に愛着を持った「課題探究型地域創生人材」を育成する。地域が抱える課題に主体的に取り組み、解決しようとする人材（課題探究型地域創生人材）の育成を通して、地域創生の一翼を担う「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を目指す。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

認定を受けようとする学科：情報学科

情報学科では、複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために幅広い教養を修得するとともに、数学を基礎として、地域産業・地域社会を持続的に発展させるために不可欠な、数理・データサイエンスやIoT・AIを含む最新の情報技術を学び、数理的思考力を基盤とするデータ分析や情報システムの開発・運用管理などのデジタル技術の活用を通して、専門家として企業や社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定め、情報学科では次の基準を満たした学生に学士（情報学）を授与する。

【知識・技能】

- ・数学を基礎として、地域産業や地域社会を持続的に発展させるためのデータ分析に不可欠な数理・データサイエンスに関する専門的知識を有している。
- ・組織におけるデジタル技術の活用に必要な情報システムの企画・設計開発・運用管理を行えるような数理・データサイエンスやIoT・AIをはじめとする情報技術に関する専門的知識を有している。
- ・産業界におけるデジタル技術を活用した情報システムの開発に必要な専門的知識や技能を有している。

【思考力・判断力・表現力】

- ・地域産業や地域社会を持続的に発展させるためのデータサイエンティストとしてデータ分析が実行できる。
- ・組織の経営戦略に基づき、デジタル技術を活用した情報システムの企画や設計開発・運用管理ができる。
- ・産業界や社会における組織体の要件を理解し、情報処理技術者としてデジタル技術を活用した情報システムを開発できる。

【主体性・協働性】

- ・企業や行政、NPOなどの組織が抱える諸課題の解決のために他者と協働し、数理・データサイエンスやIoT・AIをはじめとするデジタル技術の専門家として主体性を持って取り組むことができる。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

本学は、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念としており、理念の実現のために（1）実践力のある人材の育成、（2）地域に根ざした高度な研究、（3）大学資源の地域への提供、の3つを重点目標としている。このうち（1）が本学の教員養成の理念にかかわる部分であり、全学人材育成目標で掲げる「主体的に考え、課題解決に向け行動できる実践力、多様性を尊重する国際感覚や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯学び続ける自律的な学修者として、地域創生に貢献できる『課題探究型地域創生人材』を育成する」中で、専門的な知識とともに幅広い教養を備え、激変する教育現場で十分に指導力を発揮できる教員を輩出することで、地域社会に貢献することを目指す。

上記の目標を具現化するため、各学部の有する専門性を活かし、教育職員免許状の取得のみではなく地域における教員としての採用を目指し、地域で活躍する実践的な人材としての教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

認定を受けようとする学科：情報学科

情報学科では、複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために幅広い教養を修得するとともに、数学を基礎として、地域産業・地域社会を持続的に発展させるために不可欠な、数理・データサイエンスやIoT・AIを含む最新の情報技術を学び、数理的思考力を基盤とするデータ分析や情報システムの開発・運用管理などのデジタル技術の活用を通して専門家として企業や社会に貢献できる人材を育成することを目指している。情報学科の教員養成課程では、数学を基礎とした数理・データサイエンスおよびIoT・AIを含む最新の情報技術を身につける専門科目（数理系・情報系）を設置し、地域社会の実態や課題を把握し、数学的思考と情報技術を実践した課題解決の方法を身につける教育の実践により、学びへの探究を高め、主体的に学ぼうとする生徒を育てることができる教員を養成することを目標とする。

この教員養成の目標のため、教員としての基礎・基盤となる教養を固める教養教育として提供する全学共通教育科目や、学部の全学科・全コースの専門性を学ぶ上で基礎となる学部共通科目など、教員として求められる幅広い知識と学力を身につけることができるカリキュラムを設置する。

- ・1～2年次に全学科・全コースの領域を横断する「学部共通科目」を設定し、学部の全学科・コースの専門性を学ぶ上で基礎となる科目を幅広く配置する。
- ・2～3年次に情報学科の核となる科目群（数理系・情報系）を配置する。「学部共通科目」を履修し、学部の全学科・コースに関する専門分野の基礎を学んだ上で、学修者の興味・関心に応じて各科目群に配置された専門教育科目を体系的に学び、情報学の応用について幅広い視野で俯瞰的かつ

客観的に考えることができる判断力・思考力を育成する。

- ・3～4年次に「卒業論文」又は「地域課題解決研究」を選択必修として配置し、これまで学修した課題探究について適切な方法で考察し、論文にまとめることで、その結果を他者に効果的に伝える力を身に付ける。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

認定を受けようとする学科：情報学科

情報系分野を取り巻く環境は、コロナ禍を経て急激に変化しており、データとデジタル技術を活用したビジネスモデルの抜本的な変革（DX：デジタルトランスフォーメーション）をしていくことが重要とされ、このDXを担う人材として、AI戦略2019においては、「数理・データサイエンス・AI」を理解し、活用できる人材の輩出が大学に求められているところである。

また、高校の教育課程においては、令和4年度から「情報I」科目が必修化され、高校における「情報科」の正規教員の不足が課題視されている。

さらに、「数理・データサイエンス・AI」を身に付けた人材輩出の観点では、データサイエンス及びデータエンジニアリングに加えて、「数理」を活用するためには、基礎となる「数学」も重要となると想定している。

地域創生学部の設置の趣旨、理念や目的、人材育成目的等の基本的なコンセプトはそのままに、学科組織として構成することで時代や地域社会のニーズに対応した情報系分野を有することを明確に反映し、学内外に広く正確に伝えることを目的に組織や教育課程を再構成しながら「情報」や「数学」といった、教育職員免許状の教職課程を提供することで、国や広島県が必要とする、デジタル人材の輩出に伝えていく。

①中学校教諭一種免許状（数学）

情報学科では、数学を基礎とした数理・データサイエンスおよびIoT・AIを含む最新の情報技術を身につける専門科目（数理系・情報系）を設置し、地域社会の実態や課題を把握し、数学的思考と情報技術を実践した課題解決の方法を身に付ける教育の実践により、学びへの探究を高め、主体的に学ぼうとする生徒を育てることができる中学校数学の教員を養成することを設置の趣旨とする。

情報学科のカリキュラムにおいて、中学校数学の各単元の背景となる高等数学を理解していることを基盤とし、情報学科の核となる数理系専門科目と情報系専門科目をバランスよく習得することで、数理的思考力を基盤とするデータ分析や情報システムの開発・運用管理などのデジタル技術の活用を通して専門家として企業や社会に貢献できる人材を育成する。これにより、「総合的な学習の時間」において、データ分析等による地域課題解決を題材とした教材を開発し、生徒に数学がどのように実社会で活用されるかを伝えることのできる実践的教育を展開することができる能力を育成することに意義がある。

②高等学校教諭一種免許状（数学）

情報学科では、数学を基礎とした数理・データサイエンスおよびIoT・AIを含む最新の情報技術を身につける専門科目（数理系・情報系）を設置し、地域社会の実態や課題を把握し、数学的思考と情報技術を実践した課題解決の方法を身に付ける教育の実践により、学びへの探究を高め、主体的に学ぼうとする生徒を育てることができる高等学校数学の教員を養成することを設置の趣旨とする。

情報学科のカリキュラムにおいて、高等学校数学の各単元の背景となる高等数学を理解していることを基盤とし、学部共通教育科目により複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために幅広

い教養を修得することで、「数学と社会生活」の単元等において数学の知識や技能を活用して問題解決や意思決定を行う教材を開発し、生徒の数学的に考える資質・能力を養う実践的教育を展開できる能力等を育成することに意義がある。

③高等学校教諭一種免許状（情報）

情報学科では、数学を基礎とした数理・データサイエンスおよびIoT・AIを含む最新の情報技術を身につける専門科目（数理系・情報系）を設置し、地域社会の実態や課題を把握し、数学的思考と情報技術を実践した課題解決の方法を身に付ける教育の実践により、学びへの探究を高め、主体的に学ぼうとする生徒を育てることができる高等学校情報の教員を養成することを設置の趣旨とする。

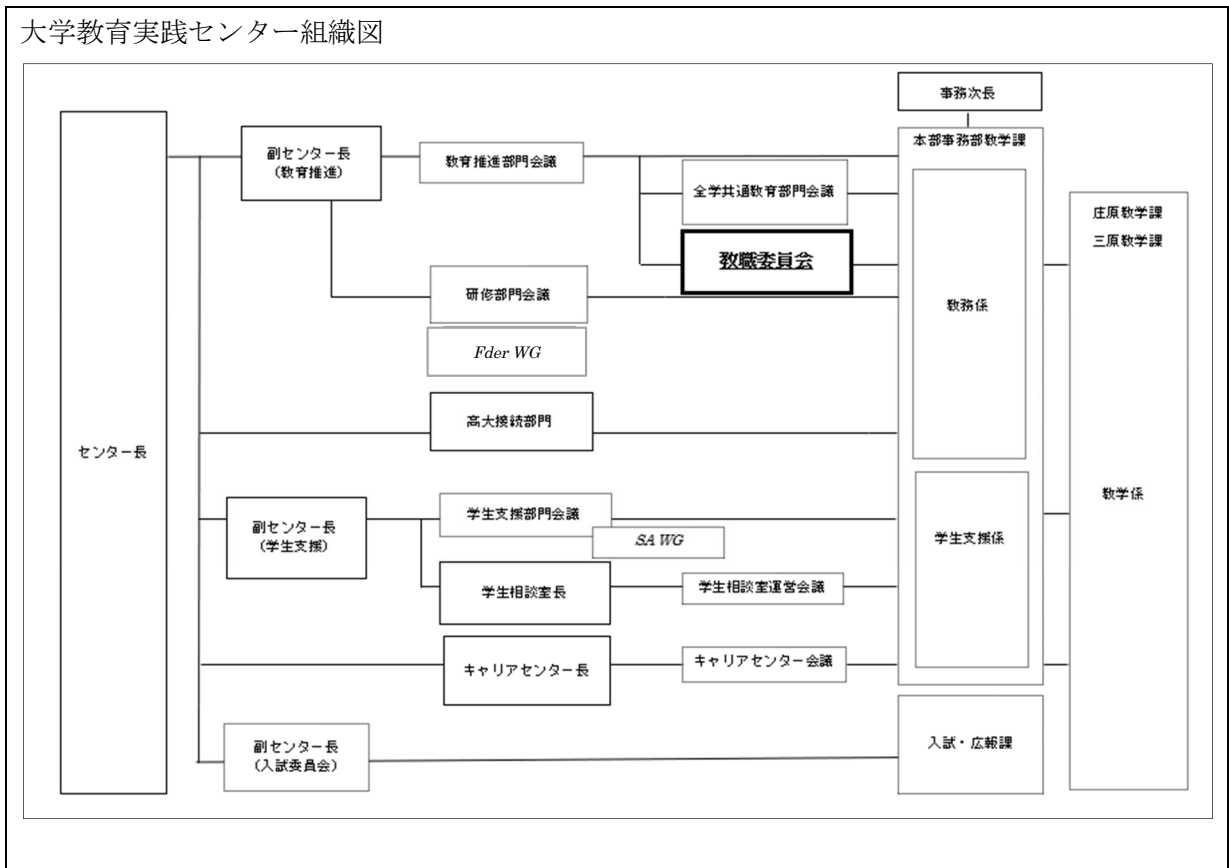
情報学科のカリキュラムにおいて、高等学校情報の各単元の背景となる情報技術・情報システム等の専門知識を有していることを基盤に、情報学科の核となる数理系専門科目と情報系専門科目をバランスよく習得することで、数理的思考力を基盤とするデータ分析や情報システムの開発・運用管理などのデジタル技術の活用を通して専門家として企業や社会に貢献できる人材を育成する。これにより「情報社会の問題解決」の単元等において、情報技術を活用して地域課題の発見・解決を行う教材を開発し、情報技術を効果的に活用して地域社会に主体的に参画するための資質・能力を養う実践的教育を展開できる能力等を育成することに意義がある。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	大学教育実践センター教職委員会
目的：	<p>委員会は、次に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に基づく、普通免許状取得のための教職課程に関すること</p> <p>(2) その他教育職員免許状に関すること</p>
責任者：	大学教育実践センター教職委員会委員長
構成員(役職・人数)：	委員12名(委員長1名含む)、事務担当職員3名
運営方法：	<p>大学教育実践センター教職委員会は、教職に関する科目を担当する教員、各学科・コース等から選出された教員に事務局員をあわせて構成される。委員会には委員長を置き、その召集により会議が開催され、委員3分の2以上が出席しなければ、会議を開くことができない。</p> <p>教職課程の運営、教員養成の質向上等、教職に関わる業務を担い、また各学部・学科・コース等と連携して事業を推進する。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

取組名称：	広島県教育委員会および広島市教育委員会 訪問 (年1回)
内容：	広島地区栄養教育実習研究連絡協議会(本学を含め、県内9大学で組織)が、広島県教育

様式第7号イ

委員会および広島市教育委員会の教育長を訪問し、担当指導主事を含めて、情報交換を行っている。各大学の教員は、広島県および広島市における栄養教諭の配置拡大に関する要望書を提出するとともに、大学が行う栄養教諭養成のあり方について意見聴取を行い、学生教育に反映させている。

取組名称：広島県の小中学校における「食に関する実態調査」等の解析

内容：広島県教育委員会が実施する児童生徒・保護者を対象とした「食に関する実態調査」および栄養教諭・学校栄養職員を対象とした「食に関する指導実績調査」の結果について、広島県教育委員会 豊かな心育成課と共同で、解析・考察し、広島県における児童生徒・保護者の食の実態や栄養教諭の食に関する指導の現状と取り組みの効果を検証している。

取組名称：広島県高等学校教育研究・実践合同発表会の共催（平成28年度～年1回）

内容：高等学校教員・教育委員会関係者と大学教職員が教育実践事例・取組成果等を発表。
主催）広島県教育委員会、共催）県立広島大学

取組名称：各種委員会への参加

内容：三原市就学指導委員会、広島県立三原特別支援学校評議員、尾道市立南高等学校評議員 三原市子ども発達支援連携会議、三原市地域自立支援協議会児童部会、三原市子育て世代包括支援センター連携推進会議、広島県教育委員会「『遊び学び育つひろしまっ子！』推進プラン」策定委員

取組名称：研修会・巡回相談（各教員1～5名が実施）

内容：三原市教育委員会、尾道市教育委員会、福山市教育委員会、世羅町教育委員会、竹原市教育委員会、江田島市教育委員会、広島県教育委員会からの依頼により研修会・巡回相談に対応 県民活動課・西部こども家庭センター・東部こども家庭センター・少年鑑別所等研修会

取組名称：広島地区大学教育実習研究連絡協議会の参加（年2回）

内容：広島市教育委員会、呉市教育委員会、関連大学（11校）が、広島市立中学校、及び、呉市立中学校における教育実習の連絡協議を行い、あわせて教職課程に関する情報交換、研究活動を推進するために意見交換を行う。また、介護等体験の受入についても連絡協議を行う。

取組名称：広島市教員等育成に関する協議会（年2回予定）

内容：広島県の関連大学（14校）、広島市教育委員会、広島市立幼稚園長会、広島市中学校長会、広島市高等学校長会、広島市立広島特別支援学校などの代表者が、教員の資質向上や大学における教員養成など広島市における教員育成の課題などに関して協議を行う。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：大学生による学校支援活動（広島市教育委員会）

連携先との調整方法：広島市の園・学校から提出された支援活動の内容から、学生の興味や適性にあった支援活動を選び、大学の担当者と連携して、園・学校と十分な協議及び打ち合わせ

様式第7号イ

	をする。支援活動詳細については、園・学校と学生や大学が十分協議する。
具体的な内容：	教科等の指導補助、学級担任の補助、放課後学習支援、ICT支援、日本語指導補助、部活動支援など。

②

取組名称：	広島県ひとり親家庭福祉連合会 学習支援ボランティア
連携先との調整方法：	広島県ひとり親家庭福祉連合会と本学担当者が連絡を取りながら、学生の都合を考慮した上で、会場、及び、日程調整を行う。
具体的な内容：	ひとり親家庭の子どもたちに対して、宿題などを通じた教科等の指導を行う。

③

取組名称：	広島市立宇品中学校 絆プロジェクト放課後学習会ボランティア
連携先との調整方法：	宇品中学校の主幹教諭と本学担当者が連絡を取りながら、学生の都合を考慮した上で日程調整を行う。
具体的な内容：	宇品中学校の放課後学習会参加者に対して、教科等の指導を行う。

④

取組名称：	広島県立加計高校芸北分校合同サマーセミナー in 芸北
連携先との調整方法：	広島県立加計高校芸北分校と本学担当者が連絡を取りながら参加者調整を行う。
具体的な内容：	サマーセミナー参加者に対して、教科や部活動などの指導を行う。

Ⅲ. 教職指導の状況

新入生に対しては、4月当初に、教員免許状の取得を希望する学生に対して、「新入生向け教職課程オリエンテーション」を実施し、教職課程の履修に関すること、教職関係の主要スケジュール、学内における教職課程の支援体制などに関する説明を行う。2年生に対しては、後期の終わり頃に「2年生等対象教職課程オリエンテーション」を実施し、介護等体験の履修に関すること、及び、教育実習の履修に関する説明を行う。3年生に対しては、前期の初め頃に「3年生等対象教職課程オリエンテーション」を実施し、教育実習に伴う学校訪問や事務書類の記載方法などに関する具体的な説明を行う。4年次においては、前期に開講される「教育実習指導」の授業内で教育実習を目前に臨む学生に対して教育実習に関する具体的な指導を行うとともに、実習生に模擬授業を課し、学部学科の教職担当、及び、教科担当が授業法について具体的に指導する。また、2年次以降の主に前期に教職志望学生と個人面談を実施し、現在の履修状況、現状での課題等について、個別の指導を実施する。

1. 情報提供

以下の事項について、キャリアセンター、附属図書館、教職課程ホームページ（学内限定）等により、学生への情報や図書・資料の提供を行っている。

(1) 教員採用試験に関する情報

教員採用試験の情報、教員採用試験の実施問題、教員採用の状況、教員採用の需要状況に関する情報、教員採用の需給予想

(2) 教職への就職状況に関する情報

本学における教員採用試験への合格の状況、本学における臨時採用・非常勤講師等への採用の状況

(3) 教職課程に関する図書、視聴覚教材

小・中・高等学校の教科書、小・中・高等学校の学習指導要領関係図書、その他の教職に関する図書、教育実習、教育方法などに関する視聴覚教材、教員採用試験受験参考書・問題集、教員採用試験受験対策に必要な資料

(4) 教員免許更新制に関する情報

(5) その他

教員免許取得のための情報（通信教育、教員資格認定試験等）

2. 採用試験対策

(1) 対策講座

- ・特別講師による教職特別講座（4月～5月頃、6月～7月頃）
- ・特別講師による広島県教委の施策と教育課題に関する教職特別講話（5月頃）
- ・教員経験者による指導案作成、模擬授業実施等の指導（5月頃）
- ・特別講師による採用試験の模擬授業、面接、集団討論対策講座（8月頃）
- ・特別講師による採用試験対策講座（10月～12月頃、2月～3月頃）
- ・卒業生の現職教員による教職進路講話（ベテラン、若手）（随時）
- ・採用試験合格者による体験談（若手の卒業生、4年生）（随時）

(2) 模擬試験

- ・外部業者による採用試験模擬試験（1月、4月、5月）

(3) その他

- ・教職課程の進路ガイダンス（4月、6月～7月頃、10月～11月頃）
- ・広島県・広島市教委担当者による採用試験などに関する説明会（11月～12月頃）

様式第7号ウ

＜地域創生学部情報学科＞（認定課程：中一種免（数学））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、日本国憲法を理解し、外国語コミュニケーションや情報機器の操作の基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、全学共通教育科目の学修を通じて教員としての基礎・基盤となる教養を身に付ける。また、数理系専門科目群における解析学に関する基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教職の意義および教員の役割・職務について理解し、教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について基礎的知識を身に付ける。また、データサイエンス、体育に関する基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、学部の全学科・全コースの領域を横断する学部共通科目の学修を通じて複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために必要な幅広い教養を身に付ける。また、数理系専門科目群における代数学・確率論・統計学に関する基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教育に関する社会的・制度的又は経営的事項、学校と地域との連携および学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。また、教育課程の意義・編成の方法およびカリキュラム・マネジメントについての基礎的知識も身に付ける。 ・教科に関して、数理系専門科目群における専門分野の基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。また、共通専門科目群のプログラミング等を学ぶことで論理的思考力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、他の教職員や関係機関と連携して組織的に生徒指導・進路指導を行うための知識・技能を身に付ける。また、体育に関する理論の基礎的知識を身に付ける。 ・教科に関して、共通専門科目群のデータ構造とアルゴリズムやプログラミング演習等の専門科目を学ぶことで、数理的思考力を課題の解決に応用できる能力を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、学校現場で特別の支援を必要とする生徒について理解し、教員として生徒指導を進める上で必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける。また、学校現場で起こる諸問題に対処するために、教育相談やカウンセリング等で必要となる理論と方法等について学ぶ。 ・教科に関して、数理系専門科目群の数値解析や確率統計等の専門科目を学ぶことで、数値化および可視化等の手法を活用した課題解決に必要な知識・技能を身に付ける。また、3年次前期から各ゼミに配属され、卒業研究において具体的な地域課題の把握から解決までのプロセスに取り組む。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、情報通信技術を効果的に活用することの意義を理解し、生徒に情報活用力および情報リテラシーを育成・指導するために必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。また、教科の指導法に関する授業では、数学科の指導法の基礎的知識を身に付け、指導案の作成、模擬講義の実施等を通じて主体的に生徒を指導する能力を養う。 ・教科に関して、数理系専門科目群の多変量解析・ニューラルネットワーク・深層学習等の専門科目を学ぶことで、最新のデータ分析に基づく課題解決の方法に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、これまで大学で学んだ教職・教科に関する知識・技能が実習校での教育実習で効果的に発揮されるよう組織的に指導を行う。また、教育実習Ⅰ・Ⅱでは、実習校において経験豊富な現場教員の指導を仰ぎつつ学校運営や教員の職務の内容を学ぶことで、学級経営や生徒指導等の複合的な教育活動を通じて生徒理解を深める。また、大学における専門的な学びに基づく課題解決を通じた実践的な教育を実行するための能力を養う。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力として修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他者に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を通じて実行できる能力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、4年次前期の教育実習で得られた成果と課題について振り返ることで、教育実習での学びを深め、教員・学生との質疑応答を通じて協働的に学びを深める。また、教職課程の総括として、中学校教員として必要な資質を再認識し、不足する能力については改善していく。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力として修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他者に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を通じて実行できる能力を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜地域創生学部情報学科＞（認定課程：中一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		解析学概論		日本国憲法	ICTリテラシー
					英語総合 I	
	後期	教職入門	基礎数学		スポーツ実技 I	
		教育学概論	確率論概論		英語総合 II	
			統計入門		データサイエンス	
2年次	前期	教育社会学	線形代数			
		教育心理学	幾何学概論			
		教育課程論	知能情報学			
			人工知能概論			
			プログラミング			
			コンピュータ概論			
	後期	生徒・進路指導論	知能情報演習	人権論	保健体育理論	
		数学科教育法 I	プログラミング演習			
			データ構造とアルゴリズム			
3年次	前期	特別支援教育	数値解析	介護等体験		卒業研究(専門演習 I a)
		道徳教育論	確率統計			
		総合的な学習の時間の指導法	最適化理論			
		特別活動論				
		教育相談				
		数学科教育法 II				
		数学科教育法 III				
	後期	教育方法学	多変量解析	介護等体験		卒業研究(専門演習 I b)
		情報通信技術の活用				ニューラルネットワーク
		数学科教育法 IV				深層学習
4年次	前期	教育実習指導				卒業研究(専門演習 II a)
		教育実習 I				
		教育実習 II				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究(専門演習 II b)

様式第7号ウ

<地域創生学部情報学科> (認定課程: 高一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、日本国憲法を理解し、外国語コミュニケーションや情報機器の操作の基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、全学共通教育科目の学修を通じて教員としての基礎・基盤となる教養を身に付ける。また、数理系専門科目群における解析学に関する基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教職の意義および教員の役割・職務について理解し、教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について基礎的知識を身に付ける。また、データサイエンス、体育に関する基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、学部の全学科・全コースの領域を横断する学部共通科目の学修を通じて複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために必要な幅広い教養を身に付ける。また、数理系専門科目群における代数学・確率論・統計学に関する基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教育に関する社会的・制度的又は経営的事項、学校と地域との連携および学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。また、教育課程の意義・編成の方法およびカリキュラム・マネジメントについての基礎的知識も身に付ける。 ・教科に関して、数理系専門科目群における専門分野の基礎科目を学び、課題解決や意思決定に活用するための数理的思考力の基礎的知識を身に付ける。また、共通専門科目群のプログラミング等を学ぶことで論理的思考力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、他の教職員や関係機関と連携して組織的に生徒指導・進路指導を行うための知識・技能を身に付ける。また、体育に関する理論の基礎的知識を身に付ける。 ・教科に関して、共通専門科目群のデータ構造とアルゴリズムやプログラミング演習等の専門科目を学ぶことで、数理的思考力を課題の解決に応用できる能力を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、学校現場で特別の支援を必要とする生徒について理解し、教員として生徒指導を進める上で必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける。また、学校現場で起こる諸問題に対処するために、教育相談やカウンセリング等で必要となる理論と方法等について学ぶ。 ・教科に関して、数理系専門科目群の数値解析や確率統計等の専門科目を学ぶことで、数値化および可視化等の手法を活用した課題解決に必要な知識・技能を身に付ける。また、3年次前期から各ゼミに配属され、卒業研究において具体的な地域課題の把握から解決までのプロセスに取り組む。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、情報通信技術を効果的に活用することの意義を理解し、生徒に情報活用力および情報リテラシーを育成・指導するために必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。また、教科の指導法に関する授業では、数学科の指導法の基礎的知識を身に付け、指導案の作成、模擬講義の実施等を通じて主体的に生徒を指導する能力を養う。 ・教科に関して、数理系専門科目群の多変量解析・ニューラルネットワーク・深層学習等の専門科目を学ぶことで、最新のデータ分析に基づく課題解決の方法に関する知識・技能を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、これまで大学で学んだ教職・教科に関する知識・技能が実習校での教育実習で効果的に発揮されるよう組織的に指導を行う。また、教育実習Ⅰでは、実習校において経験豊富な現場教員の指導を仰ぎつつ学校運営や教員の職務の内容を学ぶことで、学級経営や生徒指導等の複合的な教育活動を通じて生徒理解を深める。また、大学における専門的な学びに基づく課題解決を通じた実践的な教育を実行するための能力を養う。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力として修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他者に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を通じて実行できる能力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、4年次前期の教育実習で得られた成果と課題について振り返ることで、教育実習での学びを深め、教員・学生との質疑応答を通じて協働的に学びを深める。また、教職課程の総括として、高等学校教員として必要な資質を再認識し、不足する能力については改善していく。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力として修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他者に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を通じて実行できる能力を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜地域創生学部情報学科＞（認定課程：高一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		解析学概論		日本国憲法	ICTリテラシー
					英語総合 I	
	後期	教職入門	基礎数学		スポーツ実技 I	
		教育学概論	確率論概論		英語総合 II	
			統計入門		データサイエンス	
2年次	前期	教育社会学	線形代数			
		教育心理学	幾何学概論			
		教育課程論	知能情報学			
			人工知能概論			
			プログラミング			
			コンピュータ概論			
	後期	生徒・進路指導論	知能情報演習	人権論	保健体育理論	
		数学科教育法 I	プログラミング演習			
		データ構造とアルゴリズム				
3年次	前期	特別支援教育	数値解析	介護等体験		卒業研究(専門演習 I a)
		総合的な学習の時間の指導法	確率統計	道德教育論		
		特別活動論	最適化理論			
		教育相談				
		数学科教育法 II				
	後期	教育方法学	多変量解析	介護等体験		卒業研究(専門演習 I b)
		情報通信技術の活用				ニューラルネットワーク
						深層学習
4年次	前期	教育実習指導				卒業研究(専門演習 II a)
		教育実習 I				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究(専門演習 II b)

様式第7号ウ

＜地域創生学部情報学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、日本国憲法を理解し、外国語コミュニケーションや情報機器の操作の基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、全学共通教育科目の学修を通じて教員としての基礎・基盤となる教養を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教職の意義および教員の役割・職務について理解し、教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について基礎的知識を身に付ける。また、データサイエンス、体育に関する基礎的内容を理解する。 ・教科に関して、学部の全学科・全コースの領域を横断する学部共通科目の学修を通じて、複合的な要因による多様な課題を的確に把握するために必要な幅広い教養を身に付ける。また、情報系専門科目群の専門科目を学ぶことで、情報処理および情報システム等の基礎的知識を身に付ける。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、教育に関する社会的・制度的又は経営的事項、学校と地域との連携および学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。また、教育課程の意義・編成の方法およびカリキュラム・マネジメントについての基礎的知識も身に付ける。 ・教科に関して、情報系専門科目群の専門科目を学ぶことで、コンピュータや情報システムに関する基礎的知識を身に付ける。また、共通専門科目群における人工知能概論やデータサイエンス入門・同演習等の専門科目を学ぶことで、課題解決に利用されるデータ分析の手法の基礎的知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、他の教職員や関係機関と連携して組織的に生徒指導・進路指導を行うための知識・技能を身に付ける。また、体育に関する理論の基礎的知識を身に付ける。 ・教科に関して、共通専門科目群におけるデータ構造とアルゴリズムやプログラミング演習等の専門科目を学ぶことで、数理的思考力を課題の解決に応用できる能力を身に付ける。また、情報系専門科目群の専門科目を学ぶことで、情報システムや情報通信ネットワークの設計・管理・運用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、学校現場で特別の支援を必要とする生徒について理解し、教員として生徒指導を進める上で必要となる基礎的な知識・技能を身に付ける。また、学校現場で起こる諸問題に対処するために、教育相談やカウンセリング等で必要となる理論と方法等について学ぶ。 ・教科に関して、情報系専門科目群の専門科目を学ぶことで、マルチメディアを活用したデータ表現・処理等に関する知識・技能を身に付ける。また、3年次前期から各ゼミに配属され、卒業研究において具体的な地域課題の把握から解決までのプロセスに取り組む。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、情報通信技術を効果的に活用することの意義を理解し、生徒に情報活用力および情報リテラシーを育成・指導するために必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。また、教科の指導法に関する授業では、数学科の指導法の基礎的知識を身に付け、指導案の作成、模擬講義の実施等を通じて主体的に生徒を指導する能力を養う。 ・教科に関して、情報系専門科目群の専門科目を学ぶことで、情報処理・情報通信ネットワークやマルチメディア等の知識・技能を課題の解決に応用できる能力を身に付ける。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、これまで大学で学んだ教職・教科に関する知識・技能が実習校での教育実習で効果的に発揮されるよう組織的に指導を行う。また、教育実習Ⅰでは、実習校において経験豊富な現場教員の指導を仰ぎつつ学校運営や教員の職務の内容を学ぶことで、学級経営や生徒指導等の複合的な教育活動を通じて生徒理解を深める。また、大学における専門的な学びに基づく課題解決を通じた実践的な教育を実行するための能力を養う。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力を修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他社に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を実行できる能力を養う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関して、4年次前期の教育実習で得られた成果と課題について振り返ることで、教育実習での学びを深め、教員・学生との質疑応答を通じて協働的に学びを深める。また、教職課程の総括として、高等学校教員として必要な資質を再認識し、不足する能力については改善していく。 ・教科に関して、3年次前期にゼミ配属されてから取り組む卒業研究において、これまで身につけた知識・技能を総合的に活用した地域課題を解決する能力として修得する。学生自身が、地域課題の発見と把握、課題解決のための計画と方法の立案、分析結果に対する考察をまとめて他者に伝える力を総合的に学修し、地域課題の発見・把握から解決を通じて実行できる能力を養う。

様式第7号ウ（教諭）

＜地域創生学部情報学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期				日本国憲法	ICTリテラシー
					英語総合Ⅰ	
	後期	教職入門	データサイエンス		スポーツ実技Ⅰ	
		教育学概論	経営情報論		英語総合Ⅱ	
					データサイエンス	
2年次	前期	教育社会学	人工知能概論			
		教育心理学	データサイエンス入門・同演習			
		教育課程論	マネジメント工学			
			プログラミング			
			コンピュータ概論			
			画像情報処理			
	後期	生徒・進路指導論	システム開発論	人権論	保健体育理論	
		情報科教育法Ⅰ	データベース			
			オペレーティングシステム			
			情報ネットワーク			
			プログラミング演習			
			データ構造とアルゴリズム			
3年次	前期	特別支援教育	情報システム論	介護等体験		卒業研究(専門演習Ⅰa)
		総合的な学習の時間の指導法	情報ネットワーク実験	道徳教育論		
		特別活動論	情報セキュリティ			
		教育相談	モバイルネットワークシステム			
		情報科教育法Ⅱ	音声情報処理			
			最適化理論			
	後期	教育方法学	応用プログラミング	介護等体験		卒業研究(専門演習Ⅰb)
		情報通信技術の活用	情報セキュリティ実験			
			グラフィカルプログラミング			
4年次	前期	教育実習指導				卒業研究(専門演習Ⅱa)
		教育実習Ⅰ				
	後期	教職実践演習(中・高)				卒業研究(専門演習Ⅱb)